

令和5年度 第5回 宇美町地域公共交通活性化協議会議事概要

① 開催日時：令和6年2月9日（金）14：30～16：15

② 開催場所：宇美町役場2階大会議室左

③ 出席者：（順不同・敬称略）

〔委員〕原田（会長）、中島（西日本鉄道㈱）、中尾（合屋タクシー㈱）、鶴川（小学校区コミュニティ）、江口（自治会長会）、小河（民生委員・児童委員）、黒川（町議会議員）、和田（県土整備事務所）、大井（大分大学有識者）

〔代理出席〕村枝（九州旅客鉄道㈱、宮崎代理）、井料（九州運輸局福岡運輸支局、傳代理）、今村（福岡県交通政策課、田辺代理）

〔欠席委員〕山本（㈱木村タクシー）、辻（宇美こども子育てネット・う～みん）佐田（粕屋警察署）

〔オブザーバー〕金丸（㈱KCS）

〔事務局〕浦本、川上

1 協議事項

（会長）今回のメインは、「宇美町地域公共交通計画（素案）」である。前回の議題であった交通計画の骨子について、皆さまや関係各課の意見を反映した結果、本素案を作成した。

・宇美町地域公共交通計画（素案）

（事務局）交通計画（素案）の前段部分の説明

（会長）ご意見ご質問等あれば。

（中島）P53 一番上の箇所については、宇美町から桜並木駅を通過して南福岡駅へ向かう便で、どちらかというとは広域幹線交通であり、すでに記載されているものと重複するので削除のほうがよろしいかと。

（会長）削除させていただく。他にご意見ご質問等あれば。

（大井）P49 将来像の域内移動ところで、通学の話を入れていただいたことはありがたいが、域内移動でいいのか。町内の方が通学することもあるだろうが、どちらかというとは町外からの通学のことであろうから、広域の方ではないか。両方入れていても問題はないが、域内で「町外からの通学」とは言いにくい。「町外からの通学」という言葉を残すのであれば、広域移動ではないか。域内移動の方は「通学」だけ残せばいい。

（会長）修正を加えさせていただく。その他にないようであれば、先に進める。

（事務局）交通計画（素案）の P55 以降の説明

- (会 長) ここからの協議は目標ごとに区切りながら検討していきたい。まずは P55～61 の目標 1「持続的な公共交通体系を確立させる」について、ご質問やご意見等があれば。
- (和 田) P56 の事業 1-1) 西鉄バスの宇美駅への乗り入れについて、私のほうでは存じ上げなかったのだが、現在、町と県土整備事務所の方で協議はされているのか。交差点停止線といった道路改良について、あくまでも計画の段階なのか。この道路は現在県道であるが、町道へのバイパスができたことによる町道への移管の経路である。持ち帰って協議しても良いが、現在の状況として、どういう段階なのか。
- (事務局) 現状としてはあくまでも計画の段階だが、乗り入れに関しては進めていきたいと思っている。バス路線もたくさんあり、すべて乗り入れとなると、いろいろな問題が出てくるだろうというところで、道路改良等を計画の中に入れている。道路改良等も整備も検討しないと乗り入れも難しいだろうという話もいただいている。
- (和 田) 県土整備事務所との協議については。
- (事務局) まだしていない。
- (会 長) この協議会の中でも、乗り入れるとなると、場所が交差点に近いので、渋滞を引き起こすであろうことから改良の必要があるのではないかというところで、このような表記になっているが、まだ協議も整っていない状況である。
- (江 口) P57 の事業 1-4) 駅前広場の機能拡張について、駅前広場に交番が移転する計画になっていて、この 1,2 年以内ということ予算がついているらしいという説明を聞いたが、そうすると交番にやって来る人の駐車場や、駅への送り迎えをする自家用車の渋滞、特に迎えの駐車場、絶対的な広さが足りないのではないかと。ましてや、事業 1-1) 西鉄バスの宇美駅への乗り入れが行われると、バスの待機場も必要となり、一車線しかないの、かなり変えていかないと具体化できない。その辺はどうなのか。
- (事務局) P57 に記載している機能拡張というのは、設備的なことも含めてはいるが、ソフトの部分で、にぎわいの広場として今回行ったキッチンカーの実証実験のような人の交流がここで高まっていくことも想定しての記載になっている。江口様のご心配されている、交番の移転については副町長（会長）のほうから説明する。
- (会 長) 交番の移転等については、従前から交番が老朽化していることと、駅前への設置要望があり、なんとか駅前に設置ができないかと協議を進めていた。いろんな課題がある中で、まだ確定はしていない。早ければ令和 6、7 年度にという話もあったが、一旦見送りということになった。ただ話を聞いているのは、交番の建て替えは県の中でも優先度が高いということなので、協議が整えば、早く令和 7、8 年度ぐらいという話も聞いている。ただ設置場所

等については、ロータリーの影響も踏まえて協議を繰り返し行っているところであるので、正式に決まった折には、改めてご報告したい。

(鶴 川) 事前に決定というお話があって、みんな決定だと思っていた。

(会 長) 建て替えにはおおむね 250 m²ほど必要だそうで、ロータリーに交番を置いた場合にはロータリーの形状も少し触らないといけない。おっしゃるとおり駐車場の確保の問題もあり、周辺整備も伴ってくるので、その辺も含めた協議を進めている。

(江 口) 現在宇美駅横にある駐車場も町で買収して、場所を広げるとかそういうこともあるのか。

(会 長) これについては相手方もあることなのでこの場でお話できることではないが、場所の問題、安全性の問題等、様々あるのでじっくり検討したい。

(大 井) P58 の施策 2 運転手の確保について、2 点ある。まず、中学生、高校生への職業体験なども入れていかないと、なかなか運転手という職業があることを意識してもらえないのではないかと思います。県立高校なので町がやるのは少し難しいのかもしれないが、働きかけをしてもらって、そういう機会もありますよと推奨していくことは大事だと思う。次に事業 2-2) セカンドキャリア希望者の公共交通分野への就業促進に関連するところで、定住促進の観点も入れるといいと思う。宇美町に定住していただき、交通事業者としても働いていくということも踏み込んでもいいのではないかと思います。

P60 評価指標のところ、どこの市町村も財政が厳しい中で、公共交通にどれくらい予算をかけることができるのか、住民一人当たりで換算するとどれくらいの予算になるかというのは、大きな関心があるのではと思う。そのあたりを入れられる余地はあるのか。補助金をたくさん入れて走らせているバスがあるところは、補助金の額を積み上げていって、住民の人数で頭割りして、どれくらいの費用がかかっていますよとみなさんに見せることによって、高い費用がかかっているとなれば、じゃあもうちょっとみんなが乗ることで費用面を下げるができるし、利用しないバスに税金入れるよりは、乗って使う方が良いですという意識付けができるようになる。交通に対してどれくらい予算を入れているのか、交通計画で出せる余地はあるのか相談したい。

(事務局) のる一とに関してだけか。

(大 井) 理想は公共交通、移動に関して入れているお金を全部積み上げたい。宇美町はスクールバス等をやっているわけではないので、おそらくバスの欠損補助とのる一との費用くらいではないかと思うが。

(事務局) 先生がご指摘された通り、西鉄バスの補助金の部分とのる一との部分にあたると思う。公費負担率を交通計画に載せるか載せないかという議論は、実は事務局側のほうもしていた。今後のる一とも改善していくと記載する中で、負担率を下げるのがいいのか上げるのがいいのか目標の立て方もすごく難し

く悩ましい限りで、のる一との収支率というところで含める形で出せさて頂こうかと事務局の中では話していた。

(大 井) 確かに費用が増えていく可能性もゼロじゃない。タクシー事業者さんも通常業務と合わせてバランスを取っていかなければならない。突発で増える分は仕方がない。また、公費を減らすことが必ずしもいいとは思っておらず、予算を減らしてサービスが悪くなれば仕方がないので。人口は減っていくけれど、どの程度くらいは予算をかけますよという見せ方はしてもいいのではないか。のる一とがもう少し増える可能性もあるが、何割か増しくらいだと思う。それくらいまでは費用をかけて頑張ってください。ただし利用者みなさんにも乗ってもらって収入をあげるほうを頑張ってください。というところで見せ方はあるのかなと思う。多分、いくら費用がかかっているのかがなかなか見えてこないのは、町がやってくれていると思っている節もやっぱりある。特に利用していない方々については。お金出してやってくれているから、タクシー会社さんもバス会社さんも潰れないで何とかなっていますよねという暗黙の了解があって、危なくなった時に慌てふためいてしまうことがある。見せられるならば見せたいなとは思う。

(事務局) 目標のところに載せるのは難しい。毎回この活性化協議会を開く中で、お示しするという進行管理をしたい。

(大 井) 一案ではある。

(事務局) あくまでも目標ということで収支率は書きますが、公費負担率の額は進捗管理はきちんとしていくということを計画の中で、P70 計画の評価方法の一文に追加で書かせていただければと思う。

(会 長) 大井先生のご指摘の中の前段で、職業体験や定住促進の話があったが、行政だけではこれらはできない。受け入れ先のこともあり、バス会社さんやタクシー会社さんは職業体験の実施や運転手確保についてはどうだろうか。

(中 尾) タクシーは乗務員が不特定のところに行く中で研修をすといっても、タクシーの定員は乗務員合わせて5名しか乗れない。それに付いて回ることもできない。研修を行って、安全確認はこんな風にしますよと伝えていかなければならないけれど、実際にお客さんの待つ場所に行くと4名乗られることになれば、下車してもらわなければならない、それをまた迎えに行かなければならないこともあって難しい。教習は入社して頂ければやるが、その前の研修というのは受け入れが大変。

(中 島) 西鉄は研修センターが大野城にある。コロナ禍以前の数年は女性運転手採用のため実車体験のイベントをやっていた。常々どの自治体様も言われていることなので、そういった自治体様と広報等でスケジュールを共有して、受け入れするという事は可能。職場体験という意味ではこども50円バスも利用体験の促進の意味もあり、幼稚園や小学校への乗車体験というのは、営業所単位でも行っているし、運輸支局様とも連携してバス教室というのは福岡

市内で行っている。これらは、即座の運転手ではなく、未来を見据えたところでのタクシーであったりバスであったりの親しみやすさを醸成するという意味では営業所単位では可能。

- (大 井) 中尾さんがおっしゃたような実際乗ってどうこうまでは想定していなくて、こういう仕事ですよというのがわかる機会があるといいなと思う。そうするとイベントに来てもらうことは可能ではないだろうか。
- (中 島) 那珂川市様で行った那珂川祭りでは小型バスや中型観光バス、大型高速バスを持っていったりしているので、この施策に関しては西鉄としては問題ない。
- (井 料) 例えば、のり一との1周年でタクシーやバスに来てもらって実際に動かしたりはしないが、乗って触れていただくのも一つの方法かと思う。また、大井先生からご意見があった公的負担額については、国の方でも標準指標となっている。利用者数、収支率、公的負担額は、形状的に毎年確認ができる公共交通のほうが、どういった形になっているのか把握できるので、計画に載せないのであれば会議の方で共有して頂ければと思う。もう一点、P60のタクシー運転手数について。目標値を53としてあるが、P42には宇美町について触れている訳ではなくて、福岡交通圏の輸送人員、期末運転手数の推移となっているので、もしよければ宇美町の事業者様の状況をタクシー事業者様が2社いて、車両が何台あるということに触れていただいてもいいのではないか。
- (会 長) P42に追記したい。
- (中 尾) P56事業1-1) 西鉄バスの宇美駅への乗り入れについて、宇美駅前の交差点は、歩車分離が絶対条件ではないか。停止線位置を若干下げる、大型バスがサッと左折ができるような交差点にしないと、特に朝と夕方の学生さんが帰ってくる時の右左折の難しさがある。乗り入れの絶対条件として歩車分離というのは伝えておきたい。
- (会 長) 先ほどお話もあったように、今計画の中には書いておりますが、表記の仕方については検討する。
- (藤 木) 歩車分離の信号について、11月21日の合屋タクシーさんの前で起きた事故の後、駅周辺の交通規制の在り方について粕屋警察署と協議をしている。あの交差点は県道と町道が交差している交差点であり、町側の要望としても歩車分離の信号機にならないかと話はしている。
- (会 長) 次のP62~64の目標2「もっと公共交通を使いやすくする」について、ご質問やご意見等があればお願いします。
- (井 料) P64の評価指標内の現況値について、アンケートを取っていないので載せていないということであったが、先ほどの説明にあった令和6年度にアンケートを行って現況値を定めるということも記載してほしい。
- (会 長) そのように説明を加える。

続いて P65 の目標 3「人と環境にやさしい交通体系を構築する」について、ご質問やご意見等があればお願いします。

- (江 口) P65 事業 6-1) 環境配慮型車両への更新について、路線バスやのり一と、タクシーのことであるが、それらの車両に供給する施設についても含まれるのか。EV 車両を導入すると当然 EV 専用のスタンドも必要となってくる。それらを含んだ施設を各事業者がやるということか。
- (事務局) 今ここに目標として挙げているものは車両についてのみである。
- (江 口) 供給を考えなければ導入しても動かない。
- (事務局) 供給する施設についてもセットで考えていくようにしたい。
- (会 長) その他にご質問等はないか。
- (大 井) 自家用車から公共交通に移行することも実は環境負荷の軽減になる。そうすると、車両の更新だけでなく、公共交通を使うこと自体も目標達成になってくる。ただ、これは目標 4「公共交通を積極的に利用する」の事業 7-1) モビリティマネジメントの推進にも関係してくることになるのだが、場合によってはここに項目を再掲する形で入れることも有りではないか。目標 4 はまだ議論していないが、モビリティマネジメントは環境負荷も考えることなので。
- (鶴 川) 車が増えていくと環境が汚染されるのは「負のスパイラル」ということで前ページに記載がなかったらどうか。
- (事務局) P48 の中段に「負のスパイラル」は記載している。
- (大 井) 環境については書いていないが交通の混雑・渋滞は記載されている。混雑・渋滞すると環境は悪化するのでそれは間違いない。
- (今 村) 一応県の交通ビジョンにも環境配慮のところ、公共交通の利用推進は再掲になるが載せているところではある。
- (事務局) 載せ方については再掲という形も含めて掲載の方向でいきたい。
- (会 長) 県の方を参考にさせていただいて項目として残す形で考えたい。
- (中 尾) 補助金でタクシー会社に環境配慮型車両をとというのはありがたいことだと思っている。しかし、タクシーは一台が 60~70 万キロ走る。ハイブリット車を買ってもそれだけ走るとなると、じゃあ一般乗用車では何万キロ走れるのか。今私共はトヨタ車を使用しているが、トヨタと話をしながらでないに進められない。環境の問題として挙がってきてはいるが、維持経費としてどれくらい負担が必要なのか。補助金を頂けるのは確かにありがたいが、5 年、6 年と使っていく間に 50~60 万キロ走る時に、足回りやバッテリーを何回換えなければならないのか、そういう部分をすべて計算して経費に当てはめていく。補助金でハイブリット車を買っても、都市部は良いが、郡部は充電が負担になってきている。ガススタンドがどんどん遠くなっていて、往復で 1 時間かかるところもある。宇美町は 45 分くらいで充電できるが、いったんガソリンを入れて、どれくらいもつのか、そういうところの計算からになっ

てくる。補助金を頂けるのは本当にありがたいが、すぐ飛びつくかということでもない。電気自動車にしたいと言っても、夏と冬とではどれくらい走るのか。何キロ走ることができるのか。いろんなところを精査していかないと導入は難しい。ましてや充電設備も、会社敷地内に作るにもスタンドを10何機か置かないといけない。宇美営業所さんに置いたとしても、バスの充電が一晩で何台できるのか。そういうものを計算していかないと「はい」ということにはならない。

(江 口) 電気自動車は電気を使うので炭素化は少なくなるが、電気を作るのには火力発電や原子力発電を必要とするので、基本的には電気自動車にしても環境はそんなに変わらないということを何かで見たことがある。必ず環境配慮型でEVがいいものかは考える必要がある。

(中 尾) ただ、タクシー業界としては環境配慮型車両の導入が検討に入っていることは間違いない。

(事務局) P65 実施主体とスケジュールに、随時検討・更新と記載している。これを導入することが本当にいいのかということからになる。事業者さんとも、しっかり研究しながらこの5年間の中で随時行っていきたい。計画には目標値として挙げているが、その検討の結果どうなのかということを活活性化協議会の中で報告させて頂きたい。

(会 長) 西鉄さんのほうからはどうか。

(中 島) まさしく今日リリースを出したのだが、西鉄では「レトロフィット電気バス」というものを導入する。片江営業所に今8台あり、追加で6台、計14台になる。西鉄で一番大きな営業所にあたる那珂川営業所では、新規で4台を導入する。おっしゃられているように充電設備等や整備、中古のディーゼルバスを改造するのでメンテナンスや、航続可能距離の関係もあり、宇美に限定するとなると、この5年間の目標値というのはなんとも申し上げづらい。目標を満たせないとなると事業者としては何とも忍びないというのが本音。ただ間違いなく、レトロフィット電気バスは今後導入拡大する方向。自治体の例としては、宗像市がコミュニティバスを自治体の費用で電気バス車両購入、かつ充電設備も予算を組んで西鉄バスの赤間営業所敷地内の一部を賃借されて賃料を払われて設備は投資されているという事例はある。

(会 長) これについては事業者の方々とも話しながら随時検討を進めていきたい。次に進めたい。P66~68の目標4「公共交通を積極的に利用する」について、先ほど大井先生からも目標3のところ、自家用車から公共交通への切り替えを再掲というお話もあった。それについては追記させていただく。そのほかに意見があれば。

(大 井) P67 事業8-2) 福祉、観光、地域と連携した移動需要の創出について、買い物関係や飲食店などの商業とも関連するのは難しいか。買い物や飲食にのる

一とを使うと少し特典がありますよ、バスやタクシーで行くとこんな特典がありますよというのがあるのも面白いのではないかと。

(事務局) 作成した段階では商業との組み合わせは意識していなかったが、「おでかけ機会の創出」というところでは飲食店とのコラボを打ち出すのは有りかと思う。事務局の中ではそういった話は出たりもするが、どう取り組んでいくのか、目標の設定や事業の具体が難しかった。事業 8-2) には「福祉、観光、地域と連携した…」とあるが、その中に「商工業」を加えさせていただければ。

(大 井) そういう形がいいと思う。

(鶴 川) 今コミュニティは定期的に介護予防教室を行っていて、50～60 人集まる。そこで話が出たのは、のる一とを団体に定期利用できないかという話。例えば桜原地域の介護予防教室の際に、桜原地域をある程度定期的に回って運送してもらうことは将来的に可能性としてあるだろうか。今は予約制で乗合であるが、常に何曜日に 20 人 30 人乗りますということになれば、そういう動かし方ができるだろうか。

(事務局) どこかでのる一との説明会を行った際に、シニアクラブで利用したいという声が出た。その際には、定員数の中で予約が取れば可能という返答をしている。桜原地域の介護予防教室のために、この時間ののる一と 1 台 2 台確保するというのは無理である。代表一人があと 7 人の分も予約するねという形で事前に 7 日前から予約するということが可能。公共交通を利用するやり方としてはそれが理想かなと思う。

(鶴 川) 宇美町は市街地地区、田園地区、山林地区と別れているが、坂が多い。神山手、三原、ゆりが丘、ひばりが丘等、ほとんどが坂道ばかり。そういうところに住む高齢者はのる一としかない。高齢化が進むにつれて、将来的にはもっと使いやすく小回りが利くようなのる一との方向性を考慮いただければと思う。

(江 口) P66 事業 7-2) 乗り方教室・アプリ教室の開催について、始まる前からのる一との乗り方教室をやらせてもらって、その後利用している人もいるが、まだ利用人数も少なかった。乗り方教室については今後も講習会を複数回できるようにやらせてもらえたらいい。

(事務局) 出前講座の項目にのる一との講座も入れたので、いつでも申し込んでいただければ行える。前に行ったから行かないということはない。また、窓口にも個人的に来る方もいて、初めて来られる方もいれば、何回聞いても分からないという方もいる。個別でも地域でも組み合わせて取り組んでいく。

(江 口) 「啓発します」ということしか書いてないから、記載をしたほうがいいと思う。出前講座ですることが周知されていない。

(事務局) 事業 7-2) 乗り方教室・アプリ教室の開催のところに「出前講座」という文言を入れるようにする。

- (小 河) 民生委員も研修がある時は、各自自家用車で乗り合わせて行っている。先ほど鶴川さんがおっしゃっていたように、そういう時に借りられるようなものがあればいい。ほかの町はマイクロバスで何十人と乗って来ている。宇美町だけ各自車で駐車場を探しながら、ということが多い。
- (会 長) 運転手の手配は必要だが、宇美町もマイクロバスの貸出は行っている。
- (事務局) 江口さんの利用啓発の件については、P67に出前講座という文言を入れる。
- (会 長) 合わせて今後広報等を通じて、出前講座もあります、また窓口でもご相談くださいということを繰り返し周知していくようにしたい。
- (黒 川) P67 事業 8-1) 高齢者の免許返納の推進について、返納した方の中にはのる一とに乗らない方もいる。のる一と以外の特典も幅広く入れた方がよい。そのほうが返納率も上がるのでは。
- (事務局) 福岡県のホームページ返納を見ると、民間事業者が行っている返納者に対しての特典があり、そのPRが町として不足しているのかもしれない。ただ、町として新しいことをできないかということになると、こちらも検討協議ということになる。
- (鶴 川) 前回の協議会では、須恵町の例を示した。何でも他の町に合わせてくれということではないが、できれば進んで自分から返納したくなる環境を町の方でも整えていただければと思う。
- (会 長) 高齢者の免許返納については、様々な視点がある。その中で私共としては、まずのる一とに乗っていただきたくこうした支援策をしている。汎用性を高めようとするれば、例えばICカードへのチャージとなり、JRや西鉄バス、買い物での利用もでき、利便性が高まるだろう。
- (鶴 川) 商工会とも特典等についてご相談して努力していただいきたい。
- (井 料) P68 事業 8-2) 福祉、観光、地域と連携した移動需要の創出の中に、「地域」と入っているが、先ほど話の中に企業や住民の話も出ていたので、「地域」というぼやとしたものではなくて書けるものは書いていただければ。また、実施主体について、住民の方にも参画していただくので一緒に実施主体として書いていただければいいのではないか。
- (事務局) 追記させていただく。
- (会 長) 最後に全体を通して何かあれば。
- (大 井) 今回のる一とで利用年代別のアンケートを取られていたが、ハピネス号の時に、同様のアンケートは取っていたか。
- (事務局) 前々回の会議でお示した円グラフでのアンケート結果はあるが、それまで継続的に取ってきたものはない。
- (大 井) のる一との1年を総括する時に、その時と層が変わっているかどうか、改めて認識するために掘り出して比べた方がよい。
- (鶴 川) 雪の時、チェーンを巻いて運行することがあるか。それとも完全にストップか。

- (事務局) 運行会社のタクシー会社さんから、朝早くからこの地域は運行可能だが、このエリアは危ない等の情報を共有しているので、役場から運行する前に予約されている方にキャンセルする旨の連絡を入れるようにしている。ただ、お昼前になると雪融けしてくる場所もあるので一部運行可能の連絡をいただきながら、というようにしている。また、ラインでもお知らせしている。
- (中 尾) 朝6時半くらいから路面のチェックをしている。現在スタッドレスタイヤはのる一とは保有していない。来年度の予算でスタッドレスタイヤを購入してもらおう。住宅街の中は雪が溶けないところもあるので、6時半から走ってなるべく8時までに判断するようにしている。今年よりも来年の方がスタッドレスタイヤもあるし、走れるのでは。車自体が軽いので、後ろが滑ると難しい。人が乗るとだいぶ楽だが、空車で走るのは難しいところがある。極力のる一との運行は止めないようにしている。
- (会 長) この一年間は7月に1日だけ大雨で運休した。12月に雪の影響で部分運休させていただいた。安全を確保しながら運行していきたい。今日もたくさんのご意見等をありがとうございました。加筆修正して最終的な計画案を策定したい。今後の修正については、パブリックコメントまでの時間の関係もあるので、事務局に一任していただきたい。

3 その他

- (事務局) 2月16日(金)から2月末までパブリックコメントを実施したい。2月15日の広報と宇美町のホームページでお知らせする予定。次回の会議は、3月25日(月)午後から実施したい。3月の会議で計画の承認をいただけたら、翌4月から計画のスタートとなるので引き続きよろしくお願いします。
- (会 長) お隣の志免町でも、いよいよのる一との運行が始まる。2月24日に運行開始記念式典がある。隣町ということもあり、いろんなシーンで連携等を図れたらいいと思う。運行事業者としては宇美町の合屋タクシーさんと木村タクシーさんにご協力をいただけることになりました。よろしくお願いします。